

# 令和3年度 慶進中学校・高等学校 学校評価書

1 学校教育目標	
教育目標 (教育理念)	建学の精神「至誠」のもと、「独立自尊」「至誠一貫」「敬愛感謝」の校訓を具現化した教育の実践、多様な価値観に触れる教育活動の実践により、「強い志」「高い学力」「高い人間力」を身に付け、社会に貢献する人材を育てることを目標とする。
中期教育目標 (学校ビジョン)	Society5.0の時代に求められる新たな資質、能力を兼ね備えた人材を育成する、地域に不可欠な全国有数の進学校をめざす。

2 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
(1) 社会生活を送る基盤となる「慶進コンピテンシー12」を養う教育の実践 (2) 電子黒板・iPad導入による授業改善やさらに深い学びの構築に向けたICT教育の推進 (3) ガバナンスの強化と業務の組織化 (4) 新型コロナウイルスをはじめとする感染症等へ対応した教育活動・行事の推進 (5) 小学校・中学校生徒数の急減期、教育改革の流れや社会の変化を視野に入れた全教職員で取り組む生徒募集

3 自己評価					4 学校評価総括及び学校評価委員会	
領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	取組と課題及び学校関係者の意見・要望	評価
学 習 指 導	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着と応用力の育成</li> <li>主体的・対話的で深い学びの推進</li> <li>課題解決型学習、教科横断的学習の推進</li> <li>学習意欲の育成と習熟の度合いに応じた指導の工夫</li> <li>自ら学び努力する学習習慣の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な学習方法の指導と予習・復習の学習サイクルの確立</li> <li>学習規律の確立</li> <li>アクティブラーニングの推進、ディベートの活用</li> <li>慶進型STEAMプログラムの開発実施</li> </ul>	<b>【授業外学習時間の生徒アンケート】</b> ・高校3年生の授業外学習時間3時間以上、高校1・2年生の授業外学習時間2時間以上の割合 A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	高3 D 高校 1・2 D 中学 D	高3の平均授業外学習時間が2.4時間(3時間以上45%)と昨年度の1.4時間(3時間以上35%)より大幅に増加した。今年度の医学部や難関大学合格者の進学実績を考えると学力が高い生徒は学習時間をしっかり確保していることが伺える。 しかし、高1・2は1.7時間、中学は1.7時間と少ない。学力が中程度より低い生徒は、日常の授業に集中的に取り組んでいると感じている生徒は多いが、予習や復習の時間をもっととることができれば学力の伸長が期待できる 今年度の途中から、職員研修の内容を大幅に変更し、オンラインを活用した研修を取り入れ、教員のキャリアアップの視点で組み立てなおした。 生徒の学びに関する研修会としては、オンラインでの校外研修、校内では各コースの取組等の情報を共有した。	C
			<b>【授業への取組の生徒アンケート】</b> ・「授業に集中し意欲的に取り組んでいる」に対する生徒の肯定的評価の割合 A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	A		
			<b>【生徒の学びに関する研修会への参加】</b> A: 5回以上 B: 4回以上 C: 3回以上 D: 3回未満	A		
生 徒 指 導	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の人格を尊重し思いやりの心をもった生徒の育成</li> <li>基本的生活習慣の確立</li> <li>学校生活の環境整備</li> <li>学校行事や地域活動を通しての人間力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶・身だしなみ・マナーの徹底</li> <li>学習意欲の喚起と遅刻の防止</li> <li>校内美化、清掃の徹底</li> <li>生徒会・委員会による自主的な企画・運営の推進</li> <li>学校安全計画・危機管理マニュアルの見直し、全教職員への周知及び実施</li> </ul>	<b>【全校生徒の遅刻回数の減少率】</b> ・前年度遅刻回数に対する減少率 A: 20%以上 B: 15%以上 C: 10%以上 D: 10%未満	高校 D 中学 A	中学校の遅刻総数が76回減少し、減少率は22.4%、高校は遅刻総数が36回増加し、減少率は-4.6%となった。遅刻回数の多い生徒への個別指導により生徒の意識変容を図っている。中学生では減少したが、高校生では前年に比べ少し増加した。 いじめアンケートについては「他者を傷つける言葉を言わなかった」生徒の割合は、中学生が54.5%、高校生は81%となり、中学生の割合が低い傾向を示した。 学校安全計画・危機管理マニュアルの改善を行い、教職員への周知を図った。年度当初に、6回の避難訓練・講話等を計画し、新型コロナウイルス感染拡大により1学期の避難訓練が実施できなかったが、その他の5回の避難訓練・講話等は感染防止に配慮して実施することができた。	C
			<b>【いじめアンケートの「他者を傷つける言葉を言わなかった」生徒の割合】</b> A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	高校 B 中学 D		
			<b>【学校安全計画及び危機管理マニュアルに沿った安全指導・避難訓練の実施】</b> A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	高校 B 中学 B		
キ ャ リ ア 教 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の充実</li> <li>進路の選択機会の整備・拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高大連携教育、大学企業訪問による進路意識の高揚</li> <li>興味ある学問や職業についての探究</li> <li>外部講師等による進学指導と情報提供</li> <li>難関大学に関する情報提供</li> </ul>	<b>【コースルーブリックでの、IA文理選択・テーマ発表会、IG文理選択・テーマ発表会、ISテーマ発表会・セカンドステージファイナルの生徒自己評価平均】</b> A: B以上が90%以上 B: 同80%以上 C: 同70%以上 D: 同70%未満	B	高1のテーマ発表会は、昨年同様新型コロナウイルス感染予防対策を取りながら生徒のみで行ったが、各自が自分の興味関心と向き合い、学部学科について考える良い契機となり、プレゼンテーション能力も向上した。ISのテーマ発表会は、中学生が見学し後輩のキャリア学習にも寄与することができた。 中高一貫のセカンドステージファイナルでは、全員が志望理由書を作成して面接を受け、志望動機をより強化・深化させた。 高2の進路選択については、Aコースの生徒の約76%が大学・学部学科を決定、Gコースは全員が志望理由書を作成し、添削指導・面接を受け意思決定しており、Sコースはほぼ全員決定している。高大接続や大学企業訪問、外部講師による講演などはコロナ対策を取りながらオンラインで実施した。	B
			<b>【IIAGS進路希望調査における大学等進路選択決定の生徒の割合】</b> A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A		
人 権 教 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的人権の意義と人権尊重の理念についての正しい理解</li> <li>人権の大切さに気付く豊かな感性の育成</li> <li>新型コロナ感染症と人権尊重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育に関するLHR、学級活動、講演、体験活動の実施</li> <li>教育活動全体を通じた人権教育の深化</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大に際しての人権尊重の意識・態度の育成</li> </ul>	・人権教育講演会、人権LHRの事後のアンケートでの肯定的評価の割合 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A	1年生対象人権教育講演会、全校生徒対象人権教育講演会、全校一斉人権教育LHRなど、年間計画通り実施できた。全校対象人権教育講演会は、新型コロナウイルス感染防止のため3密を避けるため、電子黒板とipadを利用して、オンラインで実施した。生徒の事後アンケートでも肯定的評価が96.6%あり、人権教育の基本を学ぶ上で有意義であったと考える。 新型コロナウイルス感染が拡大するたびに、生徒の人権尊重の意識を高めるため、職員朝礼で教員に呼びかけたり、資料を配付したりして、生徒への一斉指導を実施した。	B
			・新型コロナウイルス感染拡大に伴う生徒の人権尊重の意識啓発回数(年間) A: 10回以上 B: 8回以上 C: 5回以上 D: 5回未満	D		

特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との関わりの中でより良い人間関係を築こうとする自主的・実践的態度の育成</li> <li>・地域社会との協働による公共心や責任感の醸成、社会に貢献できる力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動、部活動の活性化</li> <li>・学校行事・ボランティア活動・体験活動の充実</li> </ul>	<b>【学校行事・校外活動に共に1回以上参加した生徒の割合】</b> A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	高校 <b>B</b> 中学 <b>D</b>	<p>参加した生徒の割合は、中学校が60.7%、高校が81%であった。新型コロナウイルス感染防止のため、対策を講じながら行う活動が多く、生徒もこれまでのようなスムーズな参加の仕方ができなかった一方、リモートで行われたものへの参加が増加した。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行い、慶進祭を実施することができた。慶進祭以外の行事もいずれも高い満足度を示した。生徒会・実行委員会が中心となり、生徒独自の企画なども考案され、行事の準備・運営など年々レベルが上がってきている。</p>	<b>B</b>
			<b>【慶進祭・スポーツフェスティバル・体育祭・クラスマッチに関するアンケート】</b> A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	高校 <b>A</b> 中学 <b>A</b>		
健康・安全教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の生活支援の充実</li> <li>・健康、安全な学校生活への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康診断受診率の維持</li> <li>・コロナ感染症への対策 校舎、教室の換気徹底</li> <li>日々の検温・手指の消毒</li> <li>・SCの活用</li> <li>定期的なカウンセリングの実施及び、継続的な取り組み</li> <li>・奨学金制度の活用</li> </ul>	<b>【保健室利用の生徒の満足度生徒アンケート】</b> A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	<b>B</b>	<p>保健室利用の生徒満足度は、Aコース92.3%、Gコース89.3%、Sコース86.3%、中学校91.1%となっており各コースとも高い満足度を示している。</p> <p>スクールカウンセラーによるカウンセリングは月1回の定期実施を予定通り実施した。カウンセリングを受けた生徒の効果について、該当生徒の担当教員の聞き取りによると、大きく効果があった又は効果があったとする回答の割合が80%という結果であった。今後も新型コロナ感染予防に配慮して、継続的なカウンセリングを実施する。</p>	<b>B</b>
			<b>【該当生徒の担当教員へのスクールカウンセラーの効果の聞き取り】</b> 1：大きく効果があった 2：効果があった 3：特に変化なし 上記1・2の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	<b>B</b>		
ICT教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KS ICT EDUCATION POLICYの具現化</li> <li>・Road to 2025の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KSG 2020の検証とRoad to 2025の策定</li> <li>・KSTEAMルームなどICT設備を活用したICT教育の推進</li> <li>・ICTを活用した業務構造改革・業務プロセス最適化の推進</li> <li>・ICTを活用するための教員研修の実施</li> </ul>	<b>【教員アンケート KSTEAMルームの活用度5段階中5(できた)、4(ややできた)の割合】</b> A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	<b>D</b>	<p>KSTEAM ルームの活用度評価は33.4%、表彰式や終業式など行事の配信、ICT LABの活動場所としては有効に活用できた。選択教科など大人数の授業場所としての機能を高め、教員間の活用方法についての情報を共有することが必要である。</p> <p>ICTの活用度評価は58.4%であった。分掌業務におけるICT活用ということを何か特別なものようにとらえていると感じられる。日頃の業務内容をみていると、Classroomによるコミュニケーション・ペーパーレス化、Google Formによるアンケートの実施など、全教員が使用方法を共有・活用しているように思える。</p> <p>Monoxerの研修・説明会を2回、情報セキュリティ研修会を1回開催した。研修の時間を設定することが難しいが、今後、研修の回数・内容を充実させる必要がある。</p>	<b>D</b>
			<b>【教員アンケート 分掌業務におけるICTの活用度5段階中5(できた)、4(ややできた)の割合】</b> A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	<b>D</b>		
			<b>【ICTに関する教員研修会の回数】</b> A：10回以上 B：6回以上 C：3回以上 D：1回以上	<b>C</b>		
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した広報活動の推進</li> <li>・全教員による継続的かつ効果的な情報発信の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信すべき行事・入試情報等「85」の選定</li> <li>・学校ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、youtubeへの積極的な情報発信</li> </ul>	<b>【情報発信すべき行事・入試情報等「85」の情報発信の割合】</b> A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	<b>D</b>	<p>年度当初設定した情報発信すべき行事・入試情報は85件であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため11件の行事が中止となったため74件となった。そのうち28件をホームページ、21件をフェイスブックで発信した。情報発信の割合は、66.2%であり、広報すべき情報として設定したものが十分発信できなかった。各行事担当者のホームページへの掲載が徹底できなかった。年度当初設定した以外の行事等を発信できたことはよかった。</p>	<b>D</b>
学校事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の生活支援の充実</li> <li>・経営判断指標「A」の維持</li> <li>・施設・設備の計画的な整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への就学支援金制度活用の周知</li> <li>・教職員への就学支援金制度の周知</li> <li>・効果的な補助金等外部資金の活用</li> <li>・経費削減</li> <li>・事業計画に基づいた執行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの就学支援金申請書の回収率 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</li> <li>・具体的な方策の達成度 A：よくできた B：ややできた C：あまりできなかった D：できなかった</li> <li>・事業計画の達成度 A：よくできた B：ややできた C：あまりできなかった D：できなかった</li> </ul>	回収率 <b>A</b> 達成度 <b>B</b> 達成度 <b>B</b>	<p>生徒の生活支援に関する各種支援制度について、リーフレットの改善やメール配信等により周知を図り、95%近くの保護者から就学支援金申請書類の回答を得た。しかし、申請書類に不備があるケースが多数見られ、より分かりやすいリーフレットへの改善が課題である。</p> <p>経常的な補助金については漏れなく申請できた。新型コロナ関連の当年度限定補助金を活用し、ICT機器や感染対策用衛生用品などを整備した。</p> <p>経費削減については、ペーパーレス化の推進、納入業者の選択など鋭意努力を行ったが、電気代については、新型コロナの影響やガソリン代の高騰により、増額となった。</p>	<b>B</b>